

島根県立中央病院

病院名・診療科名・研修プログラム名

島根県立中央病院 総合診療科

島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム



島根県立中央病院
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
病床数 679床
救急車搬送 約3,300件/年

地域医療・家庭医療プログラム

島根県立中央病院の後期研修プログラムは、手厚い指導のもとで「充実した救命救急医療」、「地域医療の醍醐味」を体験できる内容です。離島やへき地を多く抱える島根県唯一の県立総合病院として、ドクターヘリ搬送、ドクターズカーが運用されている救命救急医療の現場において、適切な指導医と各科診療科待機によるバックアップ体制のもと、ウォークインから、3次救急まで、断らない救急救命センターを体験できます。



研修環境

2012年3月には、シュミレーター室、シャワー、仮眠室、医療秘書室を備えた臨床研修棟が完成し、臨床経験5年未満の医師が、科の垣根なく過ごす新しい医局に個人用の机、書棚を並べ、日々、切磋琢磨しています。研修には医師のみならず、多くのコ・メディカルも積極的に協力しています。良い研修カリキュラムとの自信を持っています。やる気のある皆さんの応募をお待ちしています。

女性医師が働きやすいような工夫

女子更衣室、個人用ロッカー、女性専用のシャワー室、仮眠室あり（タオル常備 シーツ交換、清掃あり）。院内保育園（生後8週から6歳対象、基本年中無休、夜間保育、看護士配置あり）、産後の搾乳室を確保。性差なく、女性医師にも一定の報酬が与えられる（WG、委員会など）産前産後休暇、育児休暇、妊娠障害（つわり）休暇、月経休暇、育児時間、看護休暇など取得可能。

プログラムの特徴

プログラムの最大の特徴は、地域医療研修にあります。ひとつの地域医療機関ではなく、地域医療をおこなう「ブロック制」での研修を行い、診療所・中小病院の診療・保健・福祉関連を同時期に業務の一端として研修が可能です。われわれの目指す医師はどのフィールドで活躍するかにかかわらず、地域住民に信頼され、そのニーズに応える保健・医療・福祉サービスを提供できる能力をもった医師を養成することにあり、ブロック制での研修はそれを達成するには良い方法であると考えます。また、テレビ会議システムでの画像、診療支援による「地域・へき地医療支援」を実習、会得することができます。

当院での研修を履修すれば、今後の医療のあるべき「姿」である「地域のニーズ、患者のニーズ」に立脚した病院や地域での診療を総合的に経験できます。

住所・ホームページアドレス・連絡先メールアドレス

〒693-8555 島根県出雲市姫原四丁目1-1

病院ホームページ www.spch.izumo.shimane.jp

連絡先 kenshuc@spch.izumo.shimane.jp shokirin@spch.izumo.shimane.jp

見学・研修の申込は、医療アシスタント日下、 宍道 へ

指導医名・記載者名

部長：増野純二（ましの じゅんじ）記載者

科の目標としている医師像

われわれの目指す医師はどのフィールドで活躍するかにかかわらず、地域住民に信頼され、そのニーズに応える保健・医療・福祉サービスを提供できる能力をもった医師を養成することにある。

I 一般目標 (General Instructional Objective : GIO)

地域住民に信頼され、そのニーズに応える保健・医療・福祉サービスを提供するために、求められる役割を理解し問題解決に導ける総合的な知識・技能・態度を習得する。

II 行動目標 (Specific Behavioral Objectives : SBOs)

1. 様々な健康問題に対して心理・社会的な問題にも配慮してそれぞれのセッティングにおけるマネージメントができる（外来診療・病棟診療・在宅診療・当直業務・代診業務など）。
2. 地域医療におけるブロック制や地域資源を理解し、医療・保健・福祉と協同して業務を行うことができる。
3. 患者・家族、スタッフなどと良好なコミュニケーションをとることができる。また、ケアにおけるチームのリーダーとしての責任と役割をはたすことができる。
4. 患者教育、スタッフ・研修医教育を行うことができる。
5. 地域における必要な検査手技・治療手技を行うことができる。
6. 継続して学習し、地域における研究にも参加し、発表や投稿を行うことができる。
7. 必要に応じて産業医活動、学校医活動、予防医学、健康診断などを行うことができる。
8. 医師としての社会的役割を理解し、安定した生活を営み、地域での生活を楽しむことができる。

スタッフ人数

7名（総合診療科、感染症科、地域医療科含む）（男性6名、女性1名）

後期研修医の人数

8名（男性4名 女性4名、地域研修含む）

当直

月1から3回（女性、育児配慮有、当直明け帰宅可）

診療科独自の病床数

15から20床程度 急性期病院病棟看護師長のベッド調整、フリーアドレス

勉強会やカンファレンスの開催曜日・時間とその概要

月曜日 入院患者カンファレンス

火曜日 感染制御チームラウンド、緩和ケアチームラウンド

水曜日 救急朝カンファレンス、

木曜日 朝抄読会

総合診療カンファレンス（院外病院と合同）

救急症例見直しカンファレンス 一般症例カンファレンス

ポर्टフォリオ発表会 臨床病理薬理カンファレンス

テクニカルレクチャー

具体的な研修・業務内容の紹介

島根県における地域医療支援システムを基礎として、地域医療を担う医師や家庭医を養成するプログラムである。3年間のプログラムで到達目標の一つは、現段階では、日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療専門医である。また、総合内科専門医、総合診療専門医、新・内科専門医の取得可能な体制を整備している。

プログラムの最大の特徴は、地域医療研修にある。ひとつの地域医療機関ではなく、地域医療をおこなう「ブロック制」での研修を行い、診療所-中小病院の診療・保健・福祉関連を同時期に業務の一環として研修が可能な点である。われわれの目指す医師はどのフィールドで活躍するかにかかわらず、地域住民に信頼され、そのニーズに応える保健・医療・福祉サービスを提供できる能力をもった医師を養成することにあり、ブロック制での研修はそれを達成するには良い方法であると考える。

○各ローテーション先で学べる内容や特色

それぞれのブロックの地域性の特徴に応じた研修が可能。たとえば隠岐地区であれば離島医療、邑智・飯南地区であれば中山間地の研修など。

○指導体制に関する特長

各施設に指導医が1-複数名おり、またその他の専門医も常勤しており、手厚い指導体制である

○医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法

各ブロックではそれぞれに協力体制が出来上がっており、また教育・研修に対する理解も得られているので、それにそって研修が可能である。

モデルとなるローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科 (島根県立中央病院・)						救急研修 (島根県立中央病院)			小児科 (島根県立中央病院 ・協力病院)		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年目	総合診療専門研修Ⅰ (協力病院・診療所)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年目	選択 (島根県立中央病院)			総合診療専門研修Ⅱ (島根県立中央病院)								

プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (6-12) カ月				総合診療専門研修Ⅱ (6-12) カ月			
領域別 研修	内科 (6) カ月		小児科 (3) カ月		救急科 (3) カ月		その他 (0-6) カ月	

※総合内科専門医、新・内科専門医を優先する場合、救急科、小児科は兼任研修の期間をプログラムに必要な長さにとり、本来の研修先の研修期間は研修の期間を減じた形で調整する。

研修記録等をもとに自己評価および指導医評価の形で形成的評価を行う。

全研修終了時に総括的評価を行う。

形成的評価：直接的観察法、カルテレビューによる評価、学会発表・論文による評価（研修期間中に、プライマリ・ケア、地域医療・家庭医療に関する複数回の学会発表を目標とし、1編以上の論文執筆を行うことが望ましい）、各施設での評価（会議や研修会への参加、横断的な委員会〔ICT、緩和、NSTなど〕や地域連携パスなどへは積極的に関わることが望ましい）、相互評価法、指導医・スタッフによる多面的評価（360° 評価）、ポートフォリオにより行う。

総括的評価：全研修終了時に、研修委員会にて研修目標の到達について総括的評価を行う。また、日本プライマリ・ケア連合学会専門医試験の結果も総括的評価となる。

凡例

- 黄色 総診18両方
- ピンク 総診1のみ
- オレンジ 総診2のみ

[illegible]

島根県立中央病院総合診療科、飯南病院、隠岐島前病院、隠岐病院など

地域支援ブロック制



医師・看護師・コメディカル

診療所

- 救急体制の維持・発展
- ・当直体制の負担軽減
- ・受け持ち患者の分散
- 検査部門の充実
(検体検査・内視鏡、超音波)
- 連携
- ・入院と地域とのスムーズな連携
- ・在宅療養支援の促進
- ・地域での医学教育の促進

- 連携
- ・医師の孤立感の解消
- ・診断→治療→療養(継続性)
- ・検査スキルの維持・向上
- ・複数の医師が曜日毎に外来診療の提供ができる。
- ・紹介のしやすさ、受けやすさ
- 職員のスキルアップ・情報共有



おきどうぜんびょういん 隠岐島前病院(44床)



スイスジェネーブ大学医学生4名、研修医とともに

- ・内科系総合医6名のみ
- ・研修医地域研修受け入れ15名
- ・医学生・看護学生他実習受け入れ
年間100名以上、のべ500日



フェリーで2.5時間



(実例) 隠岐島前ブロック

		月	火	水	木	金
島前病院	内科系 外来1	A医師	C医師	知夫診療 所長	C医師	B医師
	内科系 外来2	B医師	D医師	A医師	知夫診療 所長	D医師
	外科 外来	C医師	浦郷診療 所長	休診	A医師、 浦郷診療 所長	C医師
	検査	D医師、 知夫診療 所長	B医師	C医師、 D医師	A医師、 D医師、 知夫診療 所長	A医師
浦郷 診療所	午前	休診	A医師	浦郷診療 所長	休診	浦郷診療 所長
	午後	休診	A医師	浦郷診療 所長	休診	A医師
知夫 診療所		浦郷診療 所長	知夫診療 所長	B医師	休診	知夫診療 所長